

1年6組 学級活動指導案

平成26年10月21日(火) 第5校時

指導者 佐藤 優子

1 議題 「授業への取組を見直し、6組のレベルアップを図ろう」

中学生活と進路「学級生活を見直そう」より

内容 (1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 生徒の実態

男子16名、女子20名、合計36名で構成されており、3つの小学校から集まっている。学級目標である「1人1人が努力して笑顔あふれるクラスにしよう」を学校生活の様々な場面で意識させ、日々の活動に取り組んでいる。シグナルⅡの結果※からも、全体的に何事にも真面目で意欲的に取り組む生徒が多い。委員会や係などの役割分担にも仲間とフォローし合いながら協力して取り組む姿が多く見られる。学校行事にも熱心で、10月初旬に行われた合唱コンクールでは、実行委員を中心に計画を立て、金賞(1位)という高い目標を掲げて努力する姿や前向きさが窺えた。また話合い活動においては、4月から計画的に実施し、意見を述べやすい雰囲気作りや仲間に意見を伝える活動に力を入れている。小学校から積み上げてきた力が発揮され、毎月1回行われる学級専門委員会では、活発な意見交換が行われている。本校では専門委員会による活動が学級での自治的活動の1つとなっている。学級専門委員会の中で、学級生活の向上を目標に、各委員会活動の見直しを行い、様々な点で改善を図ってきた。これらの取組から、話合いで学級の問題を解決する習慣が着実に図られていることがシグナルⅡの結果※からも分かる。

後期のスタートに向けて前期の学級生活を見直すアンケートを行ったところ、良い点については、上記で述べた様子が生徒の意見からも多く見られたが、問題点では様々な活動の中で「できていない」「忘れて」「不足している」「てきとうになっている」といった声があがった。良くやっているように見えていたが、実際は少しずつ活動がおろそかになってきたり、いい加減に取り組んだりしていることがアンケート結果からも読み取れる。特に授業への取組に関して問題視している生徒が多く、学級として改善に取り組む必要性を強く感じている。生徒は、「私語が多い」「集中できていない」「忘れ物が多い」などといった点を主な問題としてあげているが、一方で周囲に出来ていない人がいても「自分のことではない」「言っても直らない」と放置していることにも原因があるという意見も見られた。また半数以上の生徒が「このままではそれぞれがいい加減な行動をとり、まとまりのない学級になってしまう」といった危機感を持っている。そこで、これらの問題をできていない個々の生徒の問題として対処するだけでなく、学級全体の問題として捉え、みんなで改善に向けた取組を考え実践することで解決を図っていききたいと思う。本議題を通して学級生活に対する姿勢を見直し、自分たちの所属する学級を自分たちでよりよくしていこうとする意欲や態度の向上を図りたいと考えている。

※シグナルⅡ・・・学級規範測定テスト シグナルⅡの結果(P7参照)

(2) 議題設定の理由

特別活動の目標に「集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」とある。これは、生徒が集団生活や体験活動を通して、仲間と互いに理解し合い、集団の一員としての帰属意識を高め、集団の向上を図る意欲を育てることである。また、集団を向上させるために自分にできることを考え、実践していく力を育てることと考えている。

本議題は、学級における生活改善や問題解決を目指した話合いにより、自分たちの意思で生活をよりよい方向へ発展させていく見通しを持たせることをねらいとしている。中学生になり、様々な活動に自主的、自治的な態度がより一層求められる。集団をよりよくするのは生徒1人1人の意欲と態度であり、

生徒の役割に対する責任感や意欲的な取組が日々の学級生活を支え、よりよい集団を築きあげている。一方で、学校生活に慣れるについて、委員会や係、当番活動などが滞ったり、ルールが守れず勝手に解釈をしたりする場面も少しずつ増えつつある。全体的によくやっているように見えて、徐々に個々の活動から綻びが見られ始めている。こうした状況を受けて、後期がスタートしたこの時期に話し合い活動を通して、学級の活動を様々な視点から見直したい。その中で、多くの生徒が改善の必要性を感じている問題を学級全体の問題として捉え、改善計画を考え実践することで、自主的、自治的な態度を育てたいと考え本議題を設定した。

3 指導のねらい

- 学級の問題である「授業の取組」について見直し、レベルアップを図るための取組について自分たちの考えを生かし、合意形成することができる。(思考・判断・実践)
- よりよい学級を築こうとする意欲を持ち、集団の一員としての自主的、自治的な態度を育む。
(関心・意欲・態度)

4 評価の視点と評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、実践的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
10月1日 (水) 帰りの会	アンケート① 6組のこれまで活動の成果と問題を把握するためのアンケート調査を行う。	正確な調査を実施できるよう、必要に応じて補足説明を行う。	【関心・意欲・態度】 学級生活における様々な問題に関心を持ち、改善の必要性を感じている。(アンケート)
10月1日 (水) 放課後	プログラム委員会① ・活動内容、ねらい、今後の流れの確認 ・アンケート①の集計 ・次のアンケートの作成	活動内容等を確認させ、活動に見通しを持たせる。	【関心・意欲・態度】 話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めようとしている。(観察)
10月3日 (金) 帰りの会	アンケート② 学級の問題を追求するためのアンケート調査を行う。	正確な調査を実施できるよう、必要に応じて補足説明を行う。	【関心・意欲・態度】 学級生活における様々な問題に関心を持ち、改善の必要性を感じている。(アンケート)
10月6日 (月) 放課後	プログラム委員会② ・アンケート②の集計結果を基に学級の問題を分析し、議題を決定する。 ・議題の選定理由を検討する。	アンケート結果を通して、学級の現状(良い点と問題点)を把握させ、学級の抱える問題とその原因を理解させる。	【知識・理解】 よりよい学級を築くための議題や提案理由を考えることができる。 (観察・ワークシート)

10月8日 (水) 帰りの会	アンケート③ 議題「授業への取組」に関する問題点と原因を迫するためのアンケート調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会からアンケート③を実施する理由を説明させる。 ・必要に応じて学級の本質的な問題点について補足説明を行う。 	【思考・判断・実践】 授業への取組に関して改善の必要性を感じ、具体的な問題行動やその原因を考えている。 (アンケート)
10月15日 (水) 後期開始	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート③の結果、議題、議題選定の理由を学級に掲示する。 ・各自、議題に対する自分の考えをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を通して学級の現状を把握するよう助言する。 ・発想のヒントとなる活動例を紹介する。 	【関心・意欲・態度】 議題に関心を持ち、積極的に自己の考えをまとめようとしている。(ワークシート)
10月16日 (木) 放課後	プログラム委員会③ アンケート③の集計結果を基に予想される提案内容を整理し、準備(版書計画等)を行う。話し合いの進め方を検討し、本時の活動計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れ等を検討しながら、話し合いのイメージや活動の見通しを持たせる。 ・司会者や提案者としての自覚を持たせる。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めている。 ・自分の役割を理解し、主体的に活動している。(観察)

(2) 本時の指導と生徒の活動

司会進行=プログラム委員会

	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始5分	1 開会の言葉 2 議題の発表・確認 <議題> 授業への取組を見直し、6組のレベルアップを図ろう どんな取り組みをしたら6組の授業への取組はもっとよくなるか、対処的な面と予防的な面からレベルアップを図る取組を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム委員会に司会進行表をもとに進行させる。 ・「問題点」の中から、特に多くの生徒が問題としているものを取り上げ、学級全体でその改善に向けた取組を考えることを確認する。 ・取組を考える視点の確認 ⇒対処的、予防的の言葉の意味を再度確認させる。 	【知識・理解】 提案事項や活動の条件をつかみ、学級の問題としてとらえている。(観察)
	3 提案理由の説明		<p>先日行った「学級生活を見直す」アンケート結果から、学級のみんなが問題や課題であると考えていることの多くに共通することが、「活動を忘れていて、できていない、不足している、てきとう、活動のルールが守れない人がいる」であることがわかった。この結果から学級の中で活動にいかげんに取り組む姿が見られてきていることが分かる。アンケート結果で多くの仲間が学級生活の問題と感じている「授業への取組」についても、てきとうでいかげんさが原因となっている部分が多いのではないだろうか。このままでは、学級全体としても授業が進まず、更にはみんなが勝手な行動をとり、まとまりのない学級になってしまう恐れがある。そこで「授業への取組」を学級全体の問題として受け止め、その改善についてみんなで対処的な面と予防的な面から考え、6組の活動のレベルアップを図っていきたい。</p>
	4 話し合いの条件		
	議題を学級全体の問題として考える。 (できていない人だけの問題として捉えず、みんなで協力して取り組める活動を考える。)		

<p>活動の展開 40分</p>	<p>5 話し合い活動</p> <p>○レベルアップを図るための対処的な取組と予防的な取組を発表する。 (7分)</p> <p>○司会が出された意見を整理する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似ている意見があればまとめる。 ・黒板に貼った色別短冊の分類を確認する。 <p>○対処的な取組について話し合い、集団決定する。(15分)</p> <p>①出された意見を検討する。 質問や賛成・反対意見、修正意見とその理由を発表する。</p> <p>②検討した意見の中からクラスのレベルアップを図るのに最も効果的であると思う案を選ぶ。(出された意見に取り組み順序をつけ、最もよいと思う案とその理由を発表する)</p> <p>③②の話し合いを基に意見をしぼり、集団決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数決を用いる場合は、全体でルールを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会は、事前に全員の意見を確認しておき、意見が出ない場合は良い案を考えてきた生徒を指名する。 ・予め予想される提案を短冊にしておき、柱1対処的な取組と柱2予防的な取組に分けて黒板に貼っていく。また、柱1と柱2の取組の中でも問題行動ごとに短冊を色分けし分類する。 (P6 板書計画参照) ・短冊を色別に分けた理由を述べさせ、問題行動ごとに分類された意見を確認させる。 ・一部の生徒のみで話し合いが行われることのないよう注意を促す。(授業内で必ず全員が発言できるよう司会に指示を出す。) ・取締的な取組に対する意見が多い場合は、認め合うような前向きな取組にも目を向けるよう助言する。(みんなの意欲が高まる取組に目を向けさせる。) 	<p>【関心・意欲・態度】 学級のレベルアップを図るための具体的な取組を考え、理由を示して意見を述べている。 (発表・ワークシート)</p> <p>【思考・判断・実践】 自分と他人の意見を比較し、折り合いをつけながら、実践を見通した取組を考えている。(発表)</p> <p>【関心・意欲・態度】 集団決定の場で学級の一人として意欲を持って話し合いに参加している。 (観察)</p> <p>【思考・判断・実践】 話し合いを通して、自分の考えをまとめ、集団決定にのぞんでいる。(観察)</p>
	<p>○予防的な取組について話し合い、集団決定する。(15分)</p> <p>※対処的な取組についての話し合いと同様に ①～③の順で活動を行う。</p>		

【多数決を用いる場合のルール】

①「自分もよくてみんなもよい」の考えのもと、意見を出し切る努力をした。

②多数決で決めるということを了承していること。

③何に決まっても、決まったことに全員が協力すること

活動のまとめ 5分	6 決定事項の確認（ノート書記）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組を学級全体で改善していくことが、他の活動の向上にもつながることに気づかせる。 ・より良い学級を築くためには、1人1人が前向きな気持ちで取り組むことが改善の基盤であることを伝える。 	【関心・意欲・態度】 決定事項を理解し、意欲的に取り組もうとしている。 （観察）
	7 学級委員長の話		
	8 先生の話		
	9 閉会の言葉		

(3) 事後の指導と生徒の活動

日時	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月22日 (水) 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動のふり返しを行う。本時の決定事項を通して、個人で取り組むことを考える。 ・決定事項を掲示し、可視化する。 	本時の話合いから、再度自分の授業への取組をふり返らせ、望ましい姿を確認させる。	【思考・判断・実践】 決定事項を理解し、個人で取り組むことを考え実践しようとしている。 （観察・ワークシート）
10月23日 ～31日 放課後	毎日、帰りの会で今日の自分自身の授業の取組をふり返る。 (ワークシートに結果を記入)	決めた事と実践が結びついているか確認させる。	【思考・判断・実践】 学級の一員として、決定した取組が学級のレベルアップや個人の取組の向上につながっているか評価し、更によりよい取組を考えようとしている。 （観察・ワークシート）
11月中旬 帰りの会	約1週間～10日後、決定した取組に学級全体として取り組んでいるか、成果と課題を評価する。	学級会を行う前より授業への取組が向上しているかふり返って考えるよう助言する。	【思考・判断・実践】 学級の一員として、決定した取組が学級のレベルアップや個人の取組の向上につながっているか評価し、更によりよい取組を考えようとしている。 （観察・ワークシート）

学級会 版書計画

- ・ 予め予想される取組を短冊にしておく
- ・ 提案内容を問題行動ごとに色短冊で分ける。

赤色短冊 ⇒ 「私語に関すること」

青色短冊 ⇒ 「準備や忘れ物に関すること」

緑色短冊 ⇒ 「2分前着席に関すること」

黄色短冊 ⇒ 「その他」

- ・ 本時の展開 5 話し合い活動での黒板の使い方

同じ取り組みを発表した場合⇒短冊の右わきに発表者の名前を書く

話し合い①の時 賛成意見⇒短冊の左わきに赤チョークで正の字を記入する。

反対意見⇒短冊の左わきに青チョークで正の字を記入する

修正意見⇒短冊の右脇の空いているスペースに記入する。

話し合い②の時 最も効果的な取組として発表された意見

⇒短冊の左わきに黄色チョークで○をつける

議題「授業への取組を見直し、6組のレベルアップを図ろう」

柱1 対処的な取組

○ 正

柱2 予防的な取組

修正意見などを記入する。

決定事項

短冊でなく直接記入させる。

決定事項

氏名()

議 題	<p>「授業への取組を見直し、6組のレベルアップを図ろう」 どんな取り組みをしたら6組の授業への取組はもっとよくなるか、 対処的な面と予防的な面からレベルアップを図る取組を考えよう。</p>		
提案理由	<p>先日行った「学級生活を見直す」アンケート結果から、学級の間みんなが問題や課題 であると考えていることの多くに共通することが、「活動を忘れていて、できていな い、不足している、てきとう、活動のルールが守れない人がある」であることがわか った。この結果から学級の中で活動にいいかげんに取り組む姿が見られてきているこ とが分かる。アンケート結果で多くの仲間が学級生活の問題と感じている「授業への 取組」についても、てきとうでいいかげんさが原因となっている部分が大いいた りないだろうか。このままでは、学級全体としても授業が進まず、更にはみんなが勝手 な行動をとり、まとまりのない学級になってしまう恐れがある。そこで「授業への取 組」を学級全体の問題として受け止め、その改善についてみんなで対処的な面と予防 的な面から考え、6組の活動のレベルアップを図っていきたい。</p>		
話し合いの 条 件	<p>議題を学級全体の問題として考える。 (できていない人だけの問題として捉えず、みんなで協力して取り組める活動を考える。)</p>		
役割分担	全体司会(さん・くん)	議題提案者(くん)	
	黒板書記(さん・さん)	ノート書記(さん)	
話し合う 内 容		自分が考える提案内容	そう考える理由
	対処的な 取組	•	
	今起きている 事に対する 取組	•	
		•	
	予防的な 取組	•	
	今後起こら ないよう にするため の取組	•	
		•	
決定事項	対処的な 取組		
	予防的な 取組		

特別活動

学級活動指導案

議題

「授業への取組を見直し、

6組のレベルアップを図ろう」

中学生活と進路「学級生活を見直そう」より

内容 (1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

日 時	平成26年10月21日(火) 5校時
授業学級	1年6組
場 所	1年6組教室
授業者	佐藤 優子

千葉市立若松中学校